



AUE News



2012年9月15日

第 47 号

編集・発行
愛知教育大学広報部会
TEL 0566-26-2738
FAX 0566-26-2500

目次

● 行事予定(9月16-30日)

● トピックス

- ・海外からの招へい研究者が到着
- ・中野弘幸さん刈谷市長を表敬訪問
- ・教員養成講演会
- ・東海・北陸地区国立大学法人等会計事務職員研修会
- ・津西高校生徒が本学見学
- ・大学院教育実践研究科の前期入学試験
- ・目からウロコ展 2012

・天文台一般公開

- ・日本学生陸上競技対校選手権大会で本学学生が入賞

● 愛教人インタビュー

- ・ロンドン五輪出場の中野弘幸さんに聞く

● お知らせ・報告・投稿

- ・教育復興支援学生ボランティア派遣
- ・ユネスコスクール研修会
- ・法人文書管理研修
- ・生協が仮店舗営業
- ・催しもの案内

行事予定(9/16-30)

- 18日(火) 役員部局長会議 (13:00～ 学長室)
- 19日(水) 財務委員会 (15:30～ 第五会議室)
- 21日(金) 大学改革フォーラム (13:30～ 第一会議室)
- 25日(火) 役員会 (10:00～ 学長室)
経営協議会 (14:00～ KKRホテル名古屋)
- 26日(水) 教授会 (13:30～ 第一会議室)
- 28日(金) 9月卒業式 (10:30～ 第五会議室)

トピックス

海外からの招へい研究者が到着(9/1,3)

本年度の海外協定校教職員招へいプログラムが始まり、招へい者の第一陣が9月1日(土)と3日(月)、本学に到着しました。到着したのは、南京師範大の李愛琴氏(中国)、彰化師範大の郭鳳蘭氏(台湾)、スラバヤ大のR u s m i y a t i氏(インドネシア)の3人でいずれも各大学の常勤教員です。



3日午後から国際交流センターでそろって諸手続を行った後、学長室を訪問し李氏の共同研究者である時衛国准教授と国際交流センター職員が同席。名刺交換に引き続き、松田正久学長が各氏を激励しました。

このプログラムは、学術研究及び職員研修の国際交流を推進するため、本学と交流協定を締結している海外の大学から教員、事務職員を受け入れるもので、昨年度から実施されています。各氏はこれから2カ月間にわたり本学の共同研究者とともに各専門分野の研究に従事します。今年度はこのほかに、10月以降も段階的に8

人の教員、事務職員を招へいする予定です。

(教育創造開発機構運営課 国際交流センター 鷗田真史)

中野弘幸さん刈谷市長を表敬訪問(9/3)

ロンドンオリンピックに出場した大学院生の中野弘幸さんが9月3日(月)、刈谷市役所に竹中良則市長を表敬訪問しました。

中野さんは、松田正久学長、都築繁幸理事(学生担当)と共に、竹中市長に面談し、五輪出場の際の同市の支援に対してお礼を述べ、お土産に陸上代表選手団の選手のサインが入った記念の絵皿を手渡しました。



竹中市長からオリンピック出場の感想を聞かれると、中野さんは「圧倒されました。会場で歓声が上がると涙が出ました。走る前はリラックスしていましたが、いざレースとなると他の国の選手たちの緊張感が伝わってきました」などと、初めての五輪出場の感動を口にしました。今後の選手生活について問われると「来年の世界選手権出場を目指して6月の日本選手権に向かいたい。本当に多くの人に応援してもらって、これからも頑張ってくださいと言われるので、そういう声に応えていきたいです」と抱負を語り、竹中市長と握手を交わしました。

教員養成講演会(9/4)

藤原章夫・文部科学省初等中等教育局教職員課長を講師に招いての「教員養成講演会」が9月4日(火)午後、本学第五会議室で開催されました。演題は「修士レベル化を含む今後の教員養成の方向と課題～中教審答申を受けて」。タイムリーな企画だったこともあり、愛知教員養成コンソーシアム加盟大学の教員ら学外者をはじめ本学教職員など約100人が会場いっぱいに詰めかけ、約1時間、藤原課長の話に聞き入りました。



松田正久学長が「答申を受けてこれからどうしていくのか、藤原氏にお話いただきます」とあいさつして、講師を紹介。藤原氏は答申内容を詳しく説明。改革の方向性、当面の改善方策など項目ごとに修士レベル化に伴う教員免許状の種類や教員教育委員会、学校、大学の連携の重要性について解説しました。その上で「4年プラスアルファとして教員養成が考えられている。全体を通して教員が学び続ける中に修士レベルのキャリアをおいた」「これからの教員に必要な資質は、正解がない時代を切り開いていく課題探求力」「理論と実践を教育委員会と大学が連携して実現してほしい」「成果を上げつつある教職大学院を適正に判断すべき」などと述べ、「社会的な視点を考えながら、修士レベル化が役に立つ形を作り上げていかななくてはならない」と語りました。

質疑では「教員養成がプロフェッショナル化していけば私学の統廃合が進むのでは」「6年やって教員になれないのは問題」「6年制で教員の質は落ちる。高校生に職場の魅力をアピールするとの議論はあったのか」「免許更新も10年で修士になれるなど目標があるべき」「教職大学院のプログラムは大学の自立性に配慮してほしい」など質問、要望が相次ぎました。藤原氏は「プロフェッショナル化までは考えていない。出口は教委との連携が大事。一気に修士化までいかないが、大学は教育の付加価値が問われる。免許による単位の積みあげ、ステップアップは教員のモチベーションを高める。プログラムなど具体的な方法は広く受け止めたい」と答えました。また文科省としての今後の対応については「設置基準の改正を行い、大学が組織改革が速やかに進むようにしたい。大学と教育委員会が連



携できるよう支援を考えていきたい」と話し、会場からは大きな拍手が送られました。

最後に松田学長が「お忙しい中、参加していただきありがとうございました。コンソーシアムとしてこうした講演会は続けたい。今後も連携をしていきたいのでご協力をお願いしたい」と締めくくって閉会しました。

東海・北陸地区国立大学法人等会計事務職員研修会(9/5-7)

2012年度東海・北陸地区国立大学法人等会計事務職員研修会を、9月5日(水)から7日(金)までの3日間、本学で開催しました。

この研修は、東海・北陸地区の国立大学法人等に勤務し、会計事務を担当する職員に対し、国立大学法人会計基準等に関する知識を習得させ、職員の資質向上を図ることを目的としたもので、今回は18機関から70人が参加しました。

研修では、文部科学省大臣官房会計課の齋藤弘之係長による「補助金事務について」、同省高等教育局国立大学法人支援課の橋本新一郎専門職による「国立大学法人の財務等について」の講演をはじめ、公認会計士、本学の白石薫二理事・事務局長による講演が行われました。

このほか、会計事務職員相互の情報共有を目的としたグループディスカッションが実施され、アドバイザーとして財務企画課係長5人の協力を得て、研修参加者による活発な意見交換が行われました。
(財務企画課財務総括担当係長 浅井康孝)



津西高校生徒が本学見学(9/7)

三重県立津西高等学校の1年生77人と教員2人が9月7日(金)、本学を見学しました。

バス2台で到着した生徒たちは、秘書広報課職員の案内で説明会場の第一共通棟の211教室へ移動、大学の概要を紹介する映像を視聴しました。その後の質疑応答では、生徒たちが手を上げて「(映像にあった)国際交流って具体的には何をしていますか」「選修・専攻などはいつ選ぶのですか」「教員以外の就職先はどんなところですか」「大学案内にある『豚豚豚』で、どんなクラブですか」などと活発に質問、入試課や教務課、キャリア支援課などの担当職員の説明に耳を傾けていました。

その後、第一共通棟や図書館、ガラス工房、講堂などを見て回り、「大学は広いな～」「寮も見学できますか」などと感想や質問を口にしながら、意欲的に学内施設を見学。昼食は第二福利施設のUPで、思い思いのメニューを注文して、大学生活をちょっぴり体験。午後は外国語教育の建内高昭准教授による模擬授業「専門をどう学ぶ—英語教育とは？」が行われ、教育実習の場でどのような授業観をもって教えるかを実習生の研究授業を取り上げて紹介。教える立場からの授業例に興味深そうに聞き入っていました。バスに乗り込んだ生徒たちは見送る職員に手を振って、大学を後にしました。



大学院教育実践研究科の前期入学試験(9/8、9)

本学大学院教育実践研究科(教職大学院)の前期入学試験が9月8日(土)、9日(日)に本学の第一共通棟で実施されました。

事前の出願者は教職実践基礎領域〈推薦〉7人、〈一般〉17人、教職実践応用領域〈一

般) 17人(うち、教育委員会派遣15人)の計41人(昨年度は30人)で、欠席者もなく全員が受験しました。試験の日程、選抜方法は基礎領域、応用領域ごとに異なりますが、午前中は小論文、学力検査、午後はプレゼンテーションが行われ、これらの結果を総合して12日(水)の代議員会において36人(同28人)の合格を決定し、14日(金)午前10時に本学ホームページ上で合格発表をしました。

後期試験は、願書受付が11月1日(木)～8日(木)、試験日は12月8日(土)、9日(日)に行われます。
(学生支援部入試課長 林光春)

目からウロコ展 2012(9/8-17)

本学と刈谷駅前商店街振興組合による共同事業「UNOセレクトション」第5弾、「現代アート 目からウロコ展 2012」が、9月8日(土)～17日(月)、駅前ギャラリー「スペースAqua」で開催されています。

現代アート作家でもある加藤マンヤ講師(美術教育、非常勤)が指導した美術科2年生13人が前期の授業で制作したユニークな発想の現代アート作品を展示。丸形郵便ポストをモチーフにした背負える移動式郵便ポストや、福沢諭吉の肖像画を集合させた財布、5人ともがレッド(=最強)の編隊ヒーローのフィギュア、柔道と剣道をつなげた「ニコイチ」の映像、来場者が続きを描き込める「落書きしりとり」など、ありそうでない、不思議な作品が解説とともに紹介されている。

出品した学生は「2週間に一度の授業で、毎回テーマに沿った作品を制作しましたが、アイデアが出るまでずっと苦しい思いをしました(笑)。作品のクオリティーやプレゼンのコメントの分かりやすさにも配慮してなかなか大変でしたが、初めての展覧会で展示の仕方などを体験することができてよかったです」と手応えを感じた様子でした。

9日(日)には加藤講師によるトークショーが行われ、現代ア



ートの驚きの発想や楽しみ方を解説。15日(土)には、「造形遊びワークショップ」が行われ、近隣の子どもたちが参加。学生たちの発案でTシャツに落書きしたり、本をビリビリと破いて紙吹雪にしたり、貼り絵にしたり、と普段はタブーとされているゲームに大はしゃぎ。いずれのイベントも好評のうちに終了しました。



天文台一般公開(9/8)

本学天文台の第76回一般公開が9月8日(土)午後6時から行われ、ミニ講座、3D上映、観望会に子どもから天文マニアまで合わせて50人が参加しました。



の質量に決まり、質量が太陽の8倍より小さな星雲は静かな死を迎え、8

午後6時からのミニ天文講座では、「星の死—超新星爆発と惑星状星雲—」をテーマに、澤武文教授(理科教育)が講演。星が巨大な分子雲の中で集団で生まれること、その結果、干潟星雲やバラ星雲のように、散光星雲の中にしばしば散開星雲が見られることなどを解説しました。星の一生は生まれたときの



倍より大きな星は超新星爆発という激しい最後を迎えることを、最新の画像を紹介しながら説明しました。

観望会では、さそり座のアンタレスやリング星雲M57などを観測。今回の講座の内容とも関係のあるアンタレスは赤色の巨星で、南の空の晴れ間からよく見えました。3D映像の投影会も2回行い、多くの参加者が宇宙の旅を楽しみました。

日本学生陸上競技対校選手権大会で本学学生が入賞(9/9-12)

第81回日本学生陸上競技対校選手権大会が9月9日(日)～12日(水)に国立陸上競技場で行われました。本学学生の入賞者等の結果は次の通りです。

【男子 400m】中野弘幸 優勝(2年連続)

【女子走り高跳び】堂ノ下藍 3位

【女子 3000SC】花岡紗耶 4位

【男子三段跳び】佐脇匠 7位

また、今回、陸上部顧問の筒井清次郎教授(保健体育教育)が功労賞を受賞し、9日に表彰が行われました。



愛教人インタビュー

ロンドン五輪出場の中野弘幸さんに聞く



ロンドンオリンピック陸上競技男子 1600mリレーの日本代表選手として活躍した中野弘幸さん。世界の“頂点”で何を感じ、考えたのでしょうか。夢を叶え、再び新しいスタートラインに立った中野さんに聞いてみました。

* *

ーロンドン五輪の印象は？

ひとこと“すごかった”とした言いようがないです。8万人の観衆の入った会場では、世界中のどの選手も健闘をたたえられて、会場全体が一丸となって、楽しんでいるな、という感じ。緊張感というか、何か分からないけれど涙が出ました。でも選手村では、各国のトップ選手ばかりで、ピリピリ感がこれまで経験した大会とは違いました。地響きのような歓声は、行って初めて分かりました。

ー世界の強豪が集まったレースの感想は？

全体でも最下位。やるだけやってそうですから、まだ世界レベルでは力不足かなと。圧倒されることはなかったです、あちらもアーメンとか祈っていたし(笑)。でも、レース30分前には(ウォーミングアップのため)走れないということはこれまで無かったので、慣れていなくて戸惑いました。スタートして気付いたら終わっていた、って感じでした。

ー持ち味の後半の追い上げが伸びなかったですね。

国内だと後半で勝負できるんですが、世界ではできなかった。他の国の選手は“賭けるもの”が違うように感じました。だから本当に強い選手は勝った後も喜び方が違う。ボルト選手の走りも見ましたが、競技力も会場を沸かせるパワーもすごい。しっかりと観衆の期待にこたえるのは、半端じゃなかった。

ー五輪を経験して変わったことは？

特にありません。自分自身としては楽しく陸上を続けて行き



たいと思っていますが、変わったのは周りの人の反応かな。家を出る時、「サインもらえますか？」と中学生に言われました。(笑)。

—今後の陸上競技生活は？

まだ日本代表として走りたいですね。でも、まずは愛教大の陸上部としての結果を残すのが目標。インカレ、国体がありますから。その後、修士論文に力を注ぎます(笑)。いつまで現役で続けるかは分かりませんが、走ることは一生続けていきたいです。



—夢だった小学校の教員になったら、どんな先生になりたいですか？

自分自身好きなことをやらせてもらったので、教員になったら、子どもたちには好きなことをやってもらいたいですね。あと、僕は周りからは走ることに期待されていなかったけれど、ずっと続けてきたから、オリンピックに行けましたから、子どもたちにも続けていくことの大切さを伝えたいです。

—最後に、応援してくれた人たちに一言。

本当にたくさんの応援をありがとうございました。今後ともどうぞ、よろしくお願いします。(写真は中野さん提供)

お知らせ・報告・投稿

教育復興支援学生ボランティア派遣(報告)

今夏も本学から震災被災地での教育復興支援学生ボランティアの派遣を宮城教育大学と連携して実施しました。第1期は7月22日(日)～28日(土)、第2期は8月6日(月)～10日(金)、第3期は8月20日(月)～24日(金)で、合計35人が参加。宮城県大崎市、南三陸町などの中学校で、夏休み中の生徒たちの自習学生や部活動の支援、校内の草取りなどの教育環境設備に奮闘しました。ボランティアリーダーを務めた青木裕樹さん(大学院2年)から体験談が寄せられましたので紹介します。

*

*

玄関の前で手を振る生徒と先生に見送られて、私たちが乗ったバスは静かに志津川中学校を後にしました。5日間のボランティア活動は充実したものだったが、手を振りかえす私の胸中は複雑で、喜びと悲しみがごちゃ混ぜになって收拾がつかなくなっていた。

4日前。名古屋から計3台のバスを乗り継ぎ、8月20日の朝、私を含む15人の本学学生は被災地へ入った。がれきや木屑はきれいに片づけられ、一面に緑の草むらが広がるのどかな風景。いささか拍子抜けだった。

まもなく南三陸町立志津川中学校に到着。簡単な自己紹介を終えると、そのまま部活動支援に入った。サッカー部の担当になった私は、生徒ともにパス練習やミニゲームに参加。部活動が終わると昼休みをはさみ、午後からは自習に励む生徒たちの学習支援に入った。部活動中も自習中も、生徒の顔からは笑顔が絶えなかった。

「ここは電線と信号機が復旧しただけです。復興なんてまだ始まっていません」という志津川中学校の校長のあいさつも心の中では軽く聞き流し、わかった気になっていた。しかし、被災地の実生活は私の想像を超えていた。

遠くから見ると草むらに見える場所。実際に歩いてみると、家屋の基礎部分だけが残り、錆びた鉄筋がむき出しになっている。生徒は大半が仮設住まい。志津川に当たり前の暮らしはない。眼下に広がる志津川の海を見ながら、本学の学生が「きれ



いな眺めだね」と言うと、側にいた生徒はこう返した。「海は嫌なことを思い出すから見たくない」

津波が校庭にまで流れ込み、命からがら裏山に逃げた戸倉中学校の校長からは震災当日の話を聞いた。「あの日は水没した車のクラクションが一晩中、鳴り響いていました。それから近くの家の車が燃えていました。避難所に移った後もクラクションの音は3カ月間、耳から離れませんでした」。「漁業や農業を復興しないと。自分たちで暮らしていけるようになってやっと復興だろ」と語る猪又さん（南三陸町災害ボランティアセンター長）の目は厳しかった。「被災地が忘れられたらおしまいだ。覚えてれば国の予算もつくし、ボランティアも来てくれる。親でも恋人でもいいから帰ったら南三陸町の現状を伝えてくれや。あんたたちの大事な役目だぞ」



もっと被災地の現状を知りたいと思った私たちは、2日目以降、学校でのボランティア活動が終わると、南三陸町の志津川や戸倉、さらには気仙沼市へと足を運び、自分たちの目で街を見て回った。何もわかっていない私がやれることは、被災地の現状を少しでも心にとめて愛知に持ち帰ることだった。



最終日には生徒によるささやかな送別会が行われ、本学の学生もやっと仲良くなった生徒との別れを惜しみ、思いの言葉をかけていた。生徒と先生は、そのまま玄関の外まで見送りに来てくれた。被災地の方が家族や知人の死を語るときに見せる悔しそうな顔。景色のよい高台から海を眺め「ここまで津波が来たんだよ」と教えられたときに感じた恐怖。

南三陸町に来て、たくさんの元気をもらい、そして被災地の復興はまだ始まったばかりだということを知った。

ユネスコスクール研修会（報告）

本学と文部科学省、愛知県教育委員会、名古屋市教育委員会主催の「平成24年度愛知教育大学ユネスコスクール研修会（日本/ユネスコパートナーシップ事業）」が8月7日（火）、9日（木）の両日開催されました。

文部科学省が推進している持続発展教育（ESD）の推進拠点として位置づけられているユネスコスクールの意義や仕組み、取り組み事例等について、県内各学校への周知を図るとともに、ユネスコスクールへの加盟手続き及び申請書作成についての理解を深めるのが目的です。



7日は名古屋駅近くのウィンク愛知で開催され、尾張地区の国公私立小・中・高等学校と特別支援学校の関係者計68校79人が参加しました。司会進行は、愛知県教育委員会生涯学習課主幹の坂部良二氏で、松田正久学長が「本学の大学憲章の研究目標の目的と持続発展教育（ESD）の趣旨が合致しています。2014年のESD最終年合会に向けて、県内の学校のユネスコスクール加盟支援について本学も協力していきたい」とあいさつ。愛知県・名古屋市両教育委員会を代表して、

愛知県教育委員会生涯学習課長の森繁雄氏が「愛知の教育アクションプラン2において、『持続発展教育』を推進することになっており、県としてもユネスコスクールへの加盟に力を注ぎたい」とあいさつしました。

引き続き、ユネスコ・アジア文化センター課長・佐々木万里子氏の講演があり、活動事例として、奈良教育大学附属中学・前校長の谷口義昭氏と広島県福山市立駅家西小学・元校長の本宮弘子氏の発表。休憩後、NPO法人日本持続発展教育



推進フォーラムの齋藤英行氏をコーディネーターとして、事例発表のお二人の先生方を交えて、パネルディスカッションや質疑応答などを行い活発な研修会となりました。最後に、国際交流センター長・宮川秀俊教授から、ユネスコスクール支援大学としての取り組み、参考事例等を示しながらの申請書作成について、説明が行われました。



9日は豊橋市のライフポート豊橋を会場に、三河地区の国公立小・中・高等学校と特別支援学校の関係者57校65人が参加。松田正久学長と愛知県教育委員会東三河教育事務所長の中谷真人氏からのあいさつに続き、ユネスコ・アジア文化センター参与の渡辺一雄氏の講演後、活動事例として、奈良教育大学附属中学校の主幹教諭の谷口尚之氏と東京都多摩市立多摩第一小学校長の棚橋乾氏が発表。ユネスコ・アジア文化セ

ンター参与の渡辺一雄氏をコーディネーターとして事例発表の各先生方を交えて、パネルディスカッションなどを行い、活発な研修会となりました。最後に、国際交流センター長宮川秀俊教授から、ユネスコスクール支援大学としての取り組みの発表や申請の説明があり、2日間の研修会を無事終了しました。
(国際交流センター 稲吉隆)

法人文書管理研修(報告)

8月27日(月)、29日(水)の日程で、事務職員を対象とした法人文書の管理に関する研修会を行いました。

この研修は、昨年4月に「公文書等の管理に関する法律」が施行されたことに伴い、法人文書等の管理を適切に行うための基礎的な知識の習得を目的として、今回初めて行ったもので、2日間で対象とするほぼ全ての職員の方々に参加いただくことができました。今回は、法人文書の管理業務を実際に担当している文書管理担当者と一般職員向けの研修で、法律の概要から文書管理の重要性、管理方法など本学の実情に合わせた実務中心の内容としました。



なお、今年度は11月を「文書管理強化月間」とし、法人文書ファイルや書庫の整理、自己点検の実施などを推進していくこととしていますので、より適切な文書管理に努めていただくようお願いします。
(総務課文書法規係長 古川ゆう子)

生協が仮店舗営業(お知らせ)

愛知教育大学生協同組合から、仮店舗営業のお知らせです。第一福利施設の耐震工事のため、9月から2013年3月(予定)まで仮店舗で営業します。ご理解・ご協力をお願いします。

【食品コンビニ店】講堂エントランス左側

〈月～金8:45-17:00、※土10:00-13:30〉

【旅行サービス・パソコン受付】第二福利施設1階

〈月～金10:00-17:00〉

【書籍・本部事務所】第二福利施設2階 〈月～金10:00-17:00〉

【食堂】UPのみ営業 〈月～金10:30-14:00、※土11:00-13:30〉

【臨時弁当販売所】：第一共通棟と第一人文棟の間、第一共通棟2階

〈月～金12:00-12:45〉

※は10月以降の営業になります。



催しもの案内

◆大学改革フォーラム

9月21日(金) 13:30~16:30 入場無料, 申し込み不要

本部棟 第一会議室

対象は本学学生と教職員。高等教育改革の今後はどうなるのか、他の教員養成系大学の取り組みや高等教育政策の動向は一。これらについて教職員が共に考えます。

問い合わせ: 総務課 TEL 0566・26・2115

◆愛知教育大学軽音楽部 夏場所ライブ「FEEL THE BEAT」

9月23日(日) 12:45開場 13:00開演 前売り250円、当日300円

千種文化小劇場(地下鉄桜通線「吹上駅」下車、7番出口より北へ徒歩3分)

問い合わせ: E-mail: auelightmusic@gmail.com

◆愛知教育大学講演会

9月29日(土) 13:30~15:30

第二共通棟 411教室

演題: 「教師を目指す学生・院生に贈る言葉」(そして、若手教員への助言)

講師: 東北福祉大学特任教授 有田和正氏

対象: 教員を志望する学生・大学院生と現役小中学校等の教員

申し込み: 9月24日(月)まで。

問い合わせ: 教育創造開発機構運営課 大久保さん

TEL 0566・26・2711

編集後記

この「AUE News 第47号」の編集と共に、大学広報誌「Campus Now! 第17号」(10月1日発行)の編集も大詰めを迎えています。さらに、来年夏に配布する2014年度入学者向けの「大学案内2014」の編集も、間もなくスタート。大学HPもできる範囲で更新、リニューアルしようと広報担当職員一同、張り切っています。大学としての取り組みなど、教職員や学生さんたちの日ごろの頑張りも、どしどしアピールしていきますので、投稿も歓迎です。(K)

投稿のお願い

学内外の出来事(教育・研究・地域連携・国際交流・学内事業など)に関するニュースの提供をお待ちしております。

メール: kouhou@m.auecc.aichi-edu.ac.jp 編集責任者: 総務担当理事 折出 健二